

目標値及び指標の確認

第2回専門委員会議における目標値及び指標の検討結果

- 【参考】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量の推移
- 【参考】一般廃棄物 リサイクル率の推移
- 【参考】一般廃棄物 最終処分率の推移
- 【参考】産業廃棄物 排出量の推移
- 【参考】産業廃棄物 リサイクル率の推移
- 【参考】産業廃棄物 最終処分率の推移
- 【参考】食品ロス 発生量の推移
- 【参考】入口側・出口側の循環利用率の推移
- 【参考】本県の物質フロー図（R4年度実績）
- 【参考】1人1日当たりごみ焼却量の推移
- 【参考】プラスチックのリサイクル率の推移（一廃・産廃）

第2回専門委員会議における目標値及び指標の検討結果

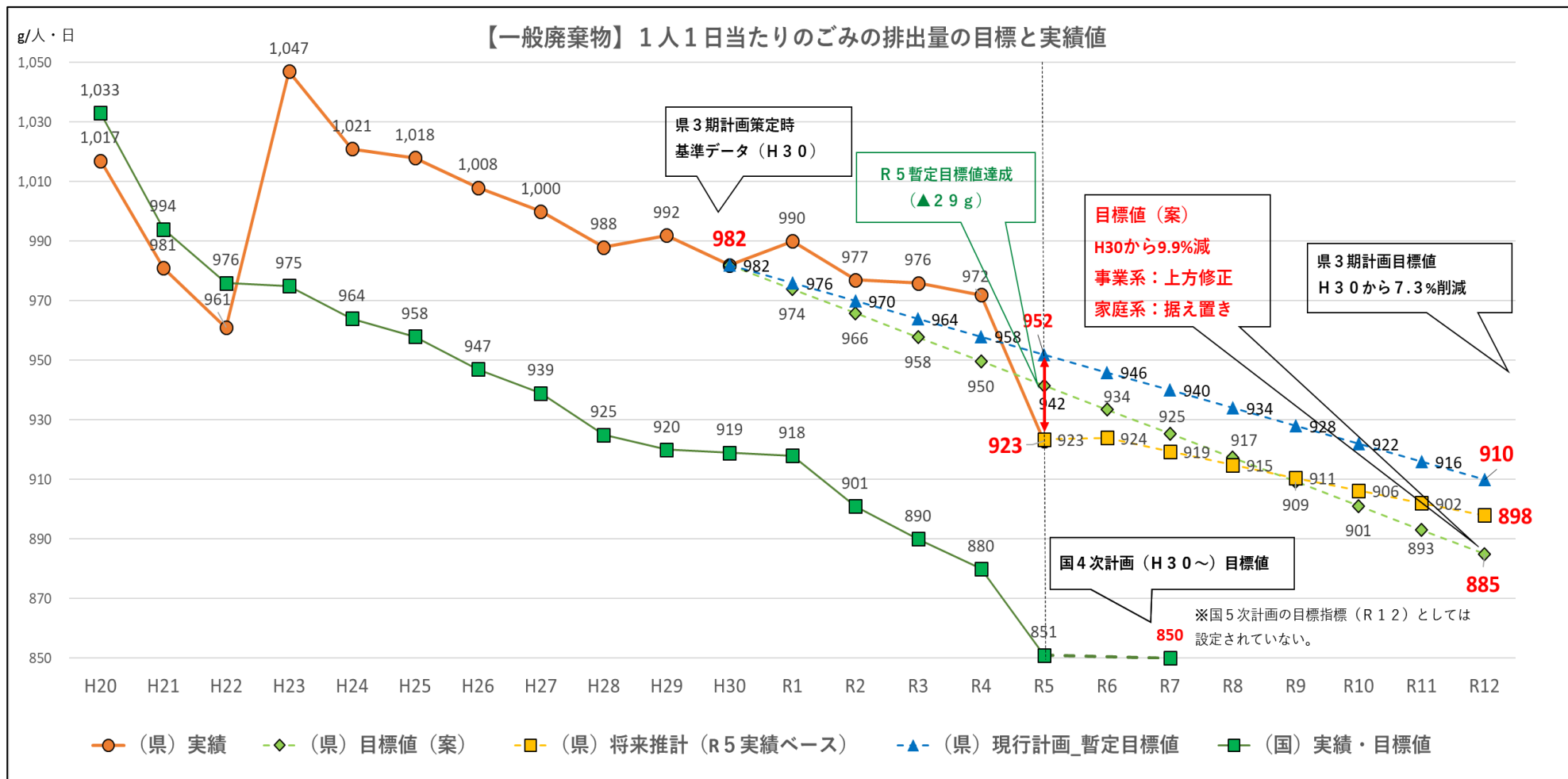
- 目標値は、R5年度実績値がR12年度
目標値を達成したものは上方修正

項 目		現行計画		将来予測値 (R12)	R12年度 新目標値	目標値見直し 方向性
		R5年度 実績値	R12年度 目標値			
一般 廃棄物	1人1日当たり のごみ排出量	923g /人・日	910g /人・日	898g /人・日	885g /人・日以下	-
	生活系ごみ	645g /人・日	625g /人・日	638g /人・日	625g /人・日以下	据え置き
	事業系ごみ	278g /人・日	285g /人・日	260g /人・日	260g /人・日以下	上方修正
	リサイクル率	22.6%	30.0%	23.6%	30.0% 以上	据え置き
	最終処分率	11.3%	10.5%	11.3%	10.5% 以下	据え置き
産業 廃棄物	排出量	10,468 千t/年	10,000 千t/年	10,480 千t/年	10,000 千t/年以下	据え置き
	リサイクル率	36.3%	35%	36.3%	36.5% 以上	上方修正
	最終処分率	1.3%	1.0%	1%	1.0% 以下	据え置き
食品ロス	食品ロス発生量 合計	7.5万t /年	7.0万t /年	-	6.7万t /年以下	-
	家庭系食品ロス	3.8万t /年	3.2万t /年	-	3.2万t /年以下	据え置き
	事業系食品ロス	3.7万t /年	3.8万t /年	-	3.5万t /年以下	上方修正
	1人1日当たり の発生量	91g /人・日	90g /人・日	-	85g /人・日以下	-
	家庭系食品ロス	46g /人・日	41g /人・日	-	41g /人・日以下	据え置き
	事業系食品ロス	45g /人・日	49g /人・日	-	44g /人・日以下	上方修正

- 現行計画の取組の目標指標を、進行管理
指標（11指標）に変更

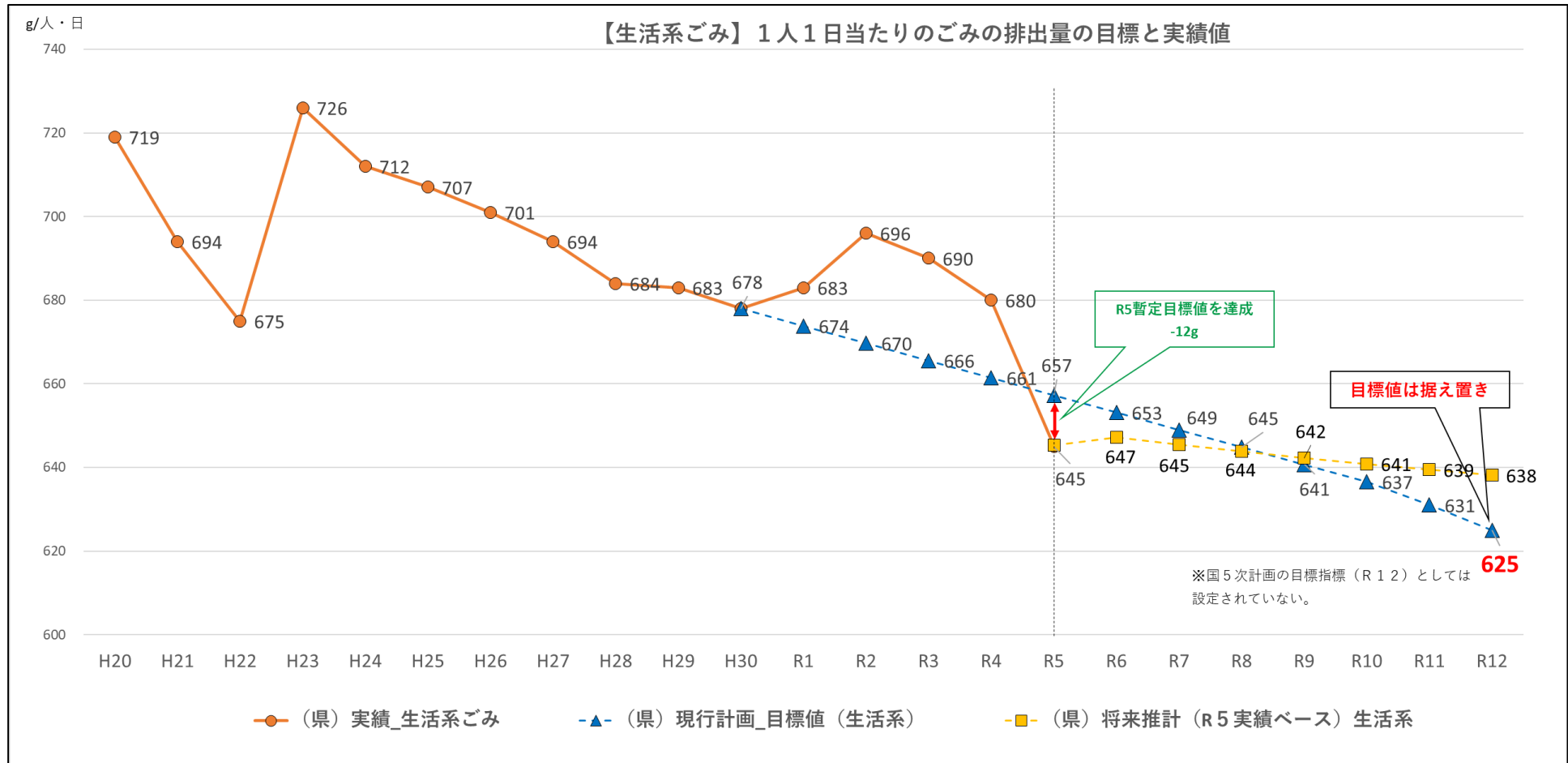
施策の方向性		No.	施策（柱）の 進行管理指標	最新実績値 (年度)	【参考】 現行の目標 指標値	R12年度 新目標値
1	循環経済 の推進	1	入口側の循環利用率	16.2% (R4)	-	19% 以上
		2	出口側の循環利用率	37.5% (R4)	-	38% 以上
		3	一般廃棄物1人1日当たり ごみ焼却量	721g /人・日 (R5)	-	690g /人・日 以下
2	プラス チック 資源循環 の推進	4	一般廃棄物プラスチックの リサイクル率	26.8% (R5)	25.0%	30% 以上
		5	産業廃棄物プラスチックの リサイクル率	70.9% (R5)	-	72% 以上
		6	一般廃棄物 製品プラ分別回収に取り組む市 町村数	16市町 (R6)	-	19市町
3	食品ロス の削減 推進	7	未利用食品の利活用 ※フードバンク補助事業の実績報告	542t/年 (R6)	130t/年	410t/年 以上
		8	一般廃棄物1人1日当たりの焼 却ごみ中のちゅう芥類量	115g /人・日 (R5)	90g /人・日	90g /人・日 以下
4	廃棄物の 適正処理	9	県内の10t以上の 不法投案件数及び量 (仙台市含む)	1件、18t (R6)	0件、0t	0件、0t
		10	家電不法投棄の台数	481台 (R5)	0台	0台
		11	災害廃棄物処理計画 策定済市町村数	28 (R6)	-	35市町村

【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量の推移



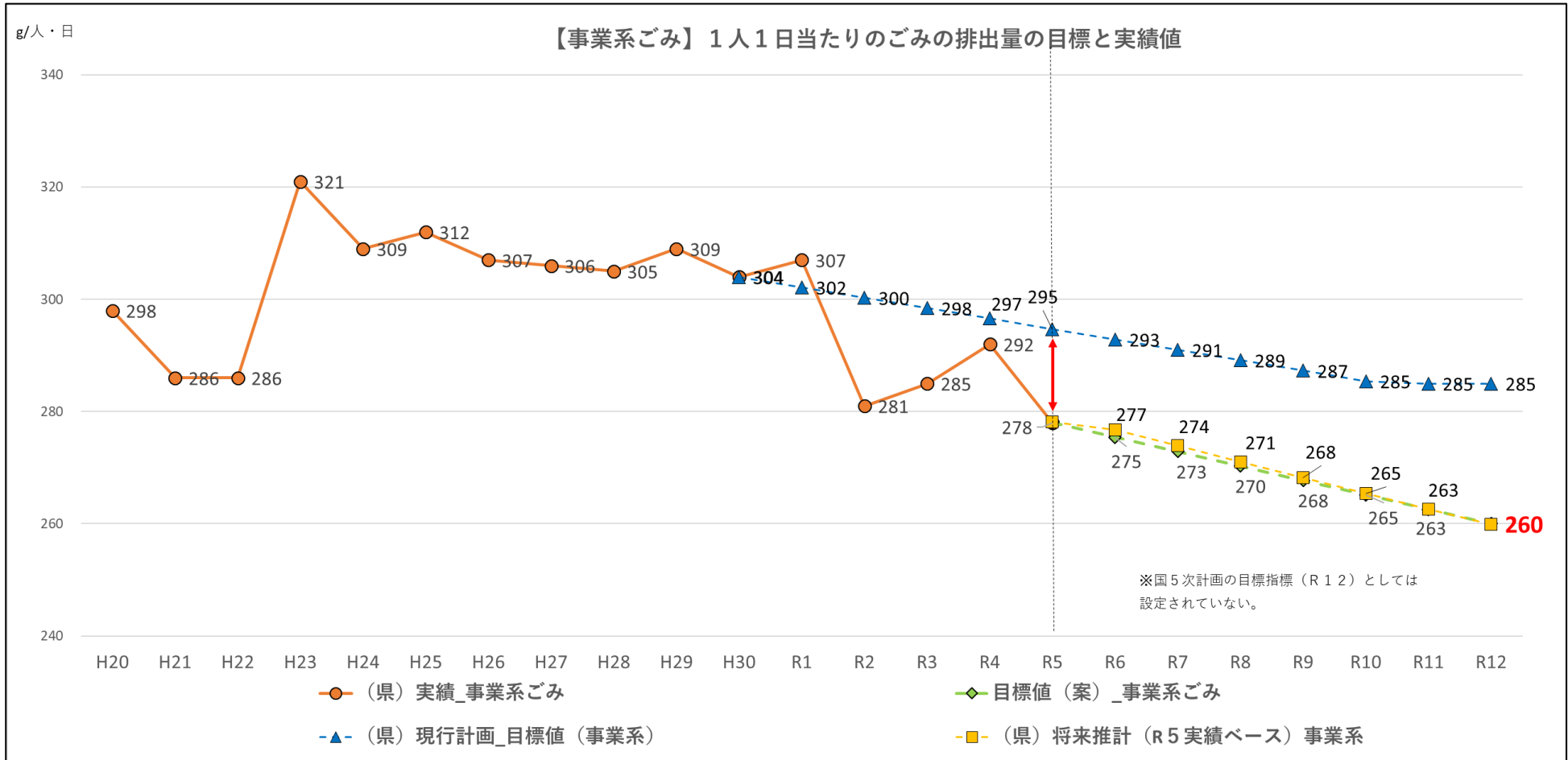
- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみの排出量」は、全体としては改善傾向にある。
- R5 暫定目標値と比較すると、**現状 (R5実績) は-29グラムと、R5 暫定目標値は達成。**
- 第1回専門委員会議で、目標値設定の方向性として、事業系ごみは上方修正、生活系ごみは据え置き、合計値であるごみ排出量は事業系ごみに伴い情報修正する。

【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量（生活系ごみ）の推移



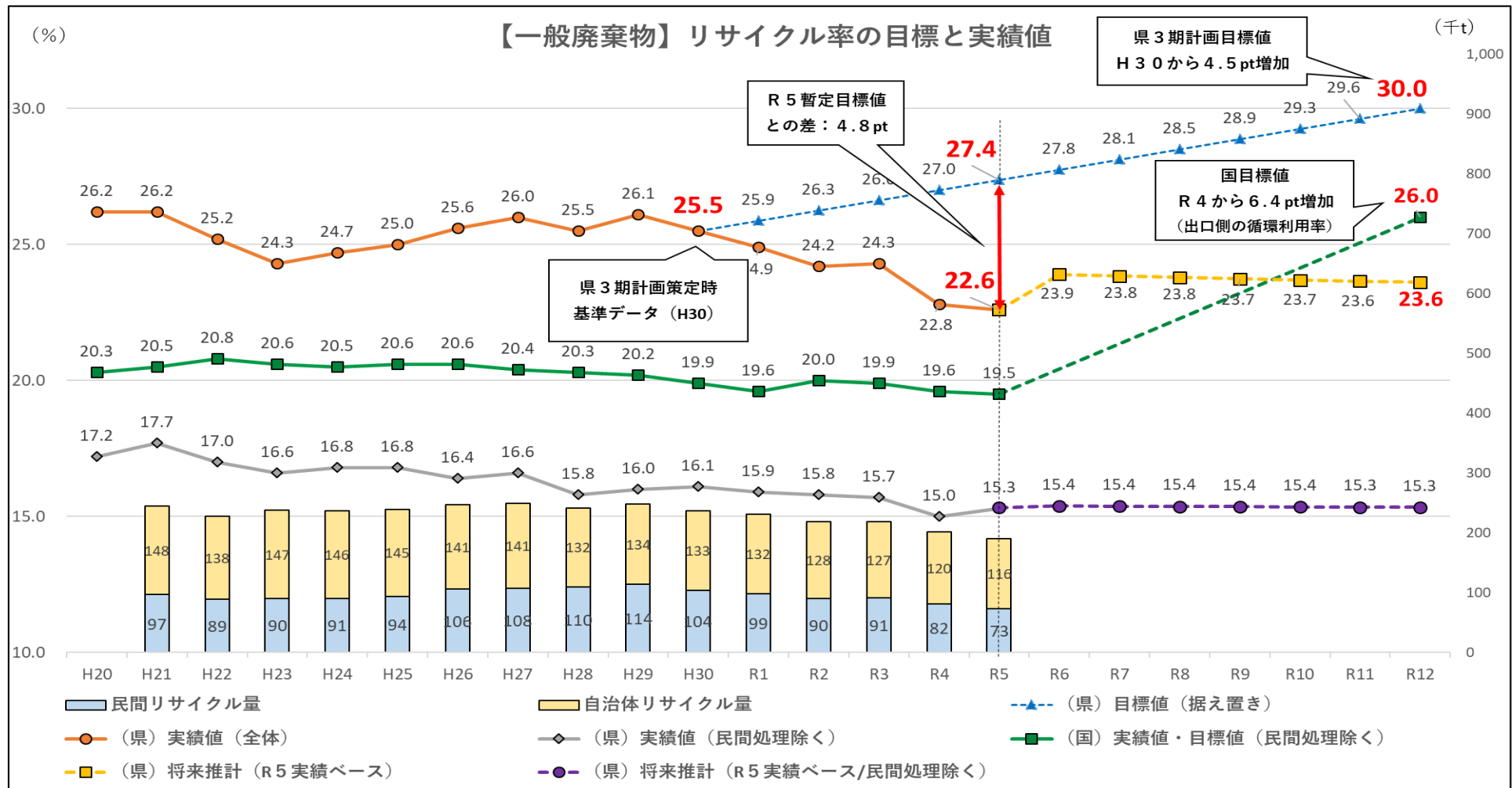
- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみ排出量(生活系)」は、全体としては改善傾向にある。
- R5暫定目標値と比較すると、**現状(R5実績)は-12グラムと、R5暫定目標値は達成。**
- R5は排出量が大幅に減少したが、全国平均値も同様に減少。物価高騰等による消費行動の抑制の影響(一時的な減少の可能性?)も考えられる。
- 将来予測では減少幅はほぼ横ばいであることから、現行計画の目標値は高い目標値であるため、据え置きとする。

【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量（事業系ごみ）の推移



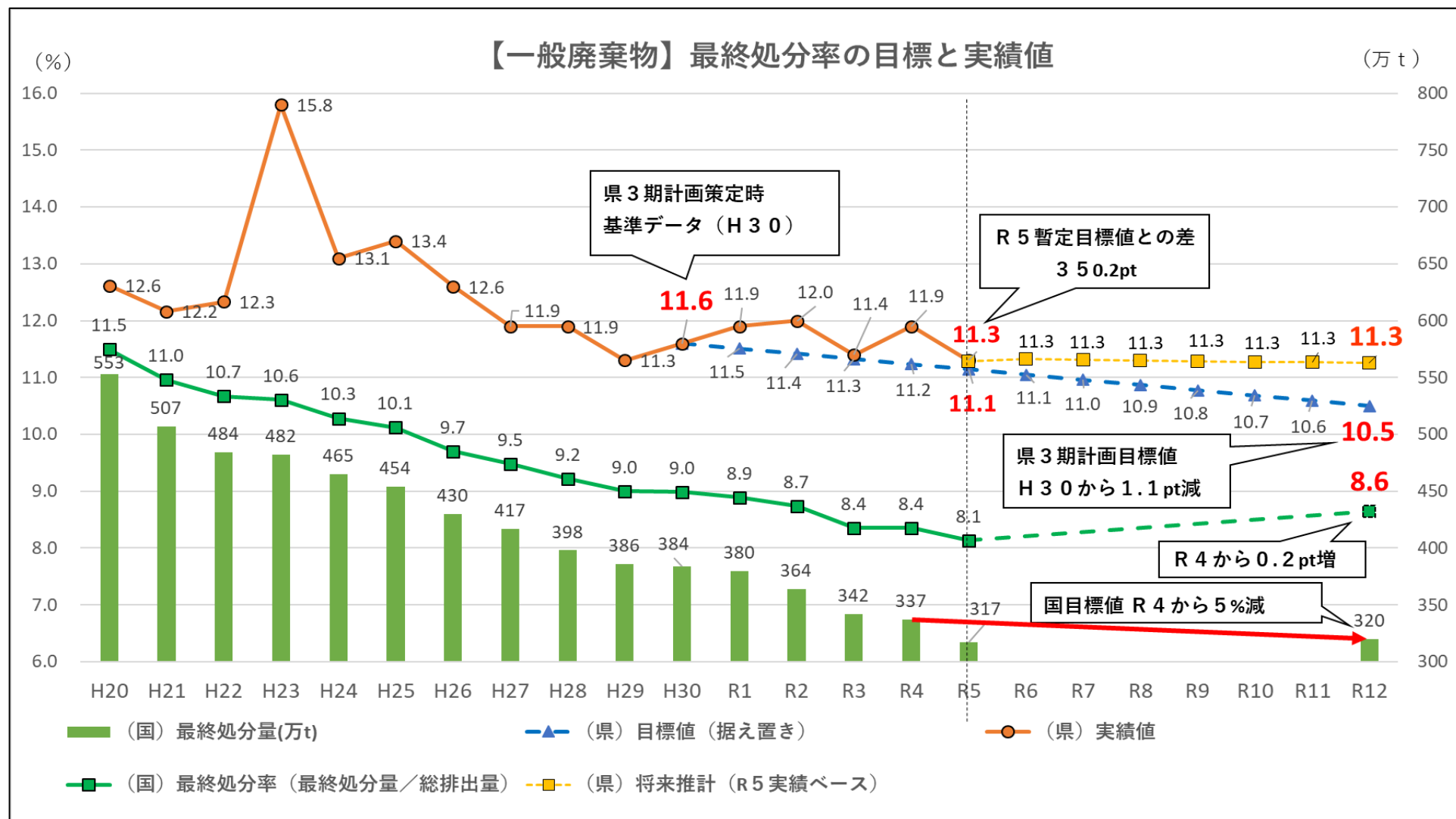
- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみ排出量(事業系)」は、全体としては改善傾向にある。
- R5暫定目標値と比較すると、**現状(R5実績)は-17グラムと、R5暫定目標値は達成。**
- R2以降はコロナ禍や物価高等による事業活動の抑制の影響（**一時的な減少の可能性?**）も考えられるため、R6年度以降の推移を確認する必要がある。
- 以上のことから、将来予測値を採用する。

【参考資料】一般廃棄物 リサイクル率の推移



- 一般廃棄物の「リサイクル率」は、**H30年度以降、低下傾向**にあり、**R5暫定目標値は未達成**。
- ペーパーレス化やガラス瓶商品の減少による**古紙やガラス類等の資源回収量の減少**などにより、再資源化量は減少傾向にある。
- 近年は、フリマアプリ市場の拡大により個人間でのリユース取引が増加していることや、小売店における店頭回収リサイクル、飲料メーカーによるペットボトルの水平リサイクルといった取組が進んでいる。
- これらの**個人や民間事業者によるリユース・リサイクルが進展した結果、自治体のリサイクル率は低下傾向**にある。
- 現状、民間リサイクル量を把握し切れていない可能性があるため、更なる補足調査を実施することで統計精度の向上に取り組む。
目標値は据え置き、次期計画策定時 (R12) までに実態の把握及び目標値のあり方を検討する。

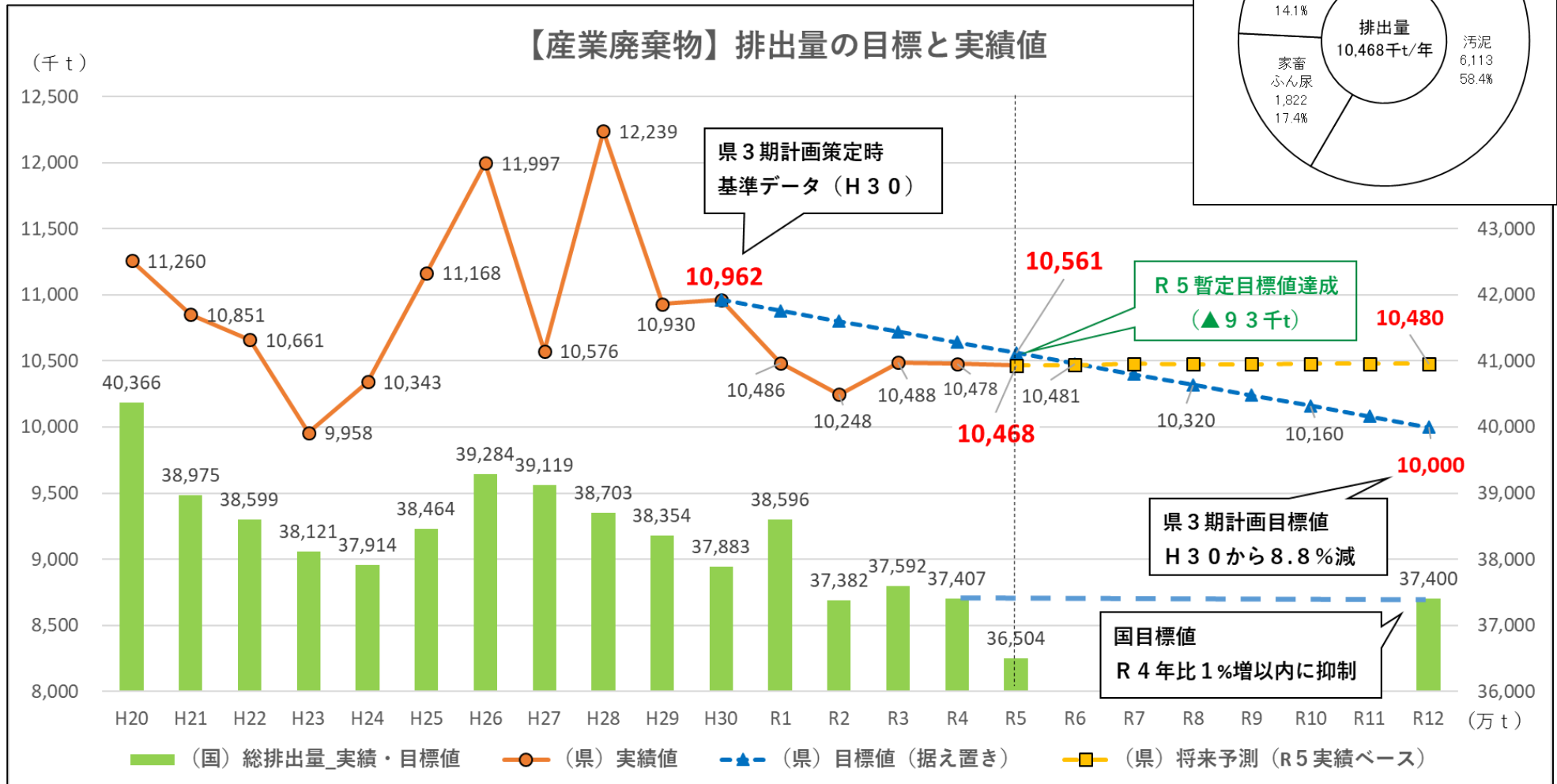
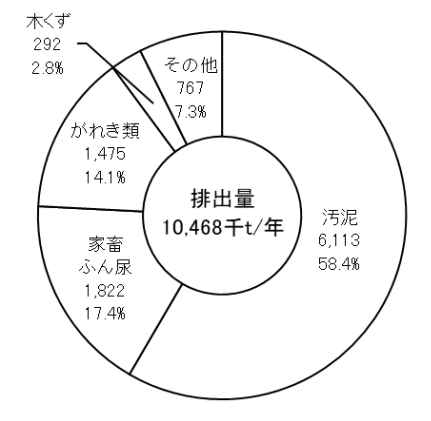
【参考資料】一般廃棄物 最終処分率の推移



- 一般廃棄物の「最終処分率」は年度によって増減があるものの、R5暫定目標値と比較すると、**現状(R5実績)は▲0.2pt**となっており、**R5暫定目標値は未達成**。
- リユースの推進や分別の徹底など、更なる改善が必要。
- 現行計画の目標値を継続する。

【参考資料】産業廃棄物 排出量の推移

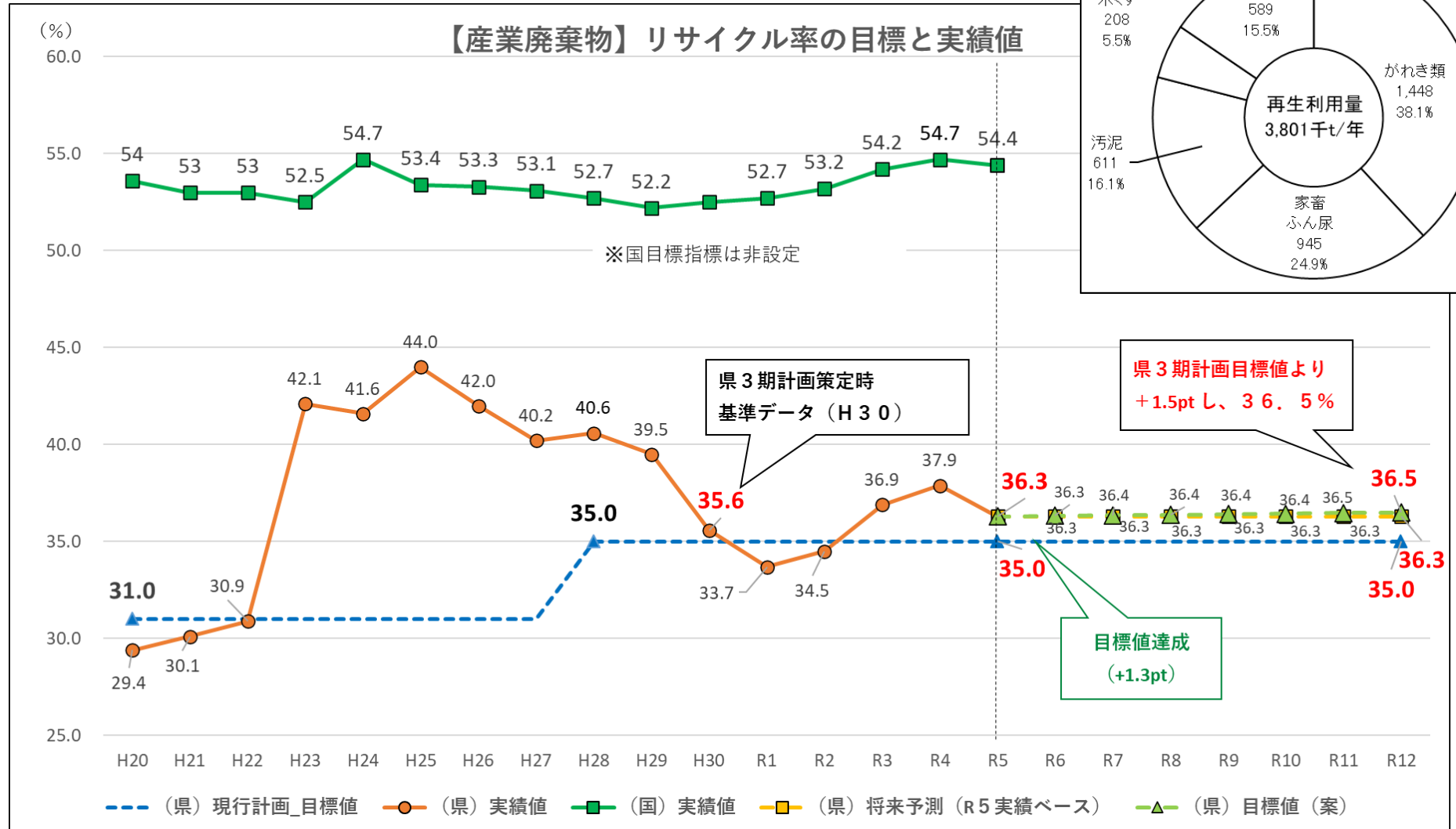
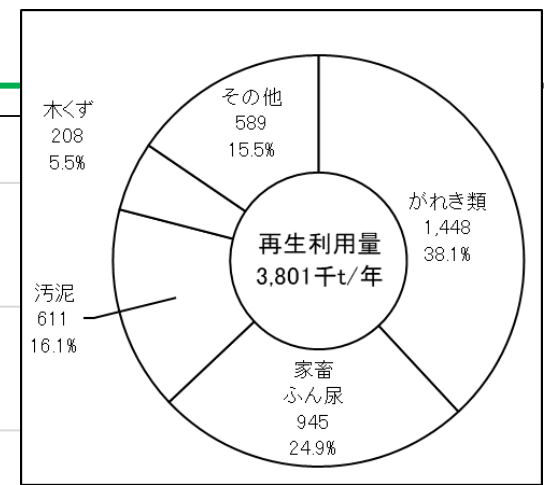
県排出量の内訳
(令和5年度)



- 産業廃棄物の「排出量」は年度によって増減があるものの、R5暫定目標値と比較すると、現状(R5実績)は▲93千tとR5暫定目標値を達成。
- H30年度以降、暫定目標値を達成し、近年は概ね暫定目標値に近い数値で推移しており、引き続き、目標達成を目指す(目標値は据え置き)。

【参考資料】産業廃棄物 リサイクル率の推移

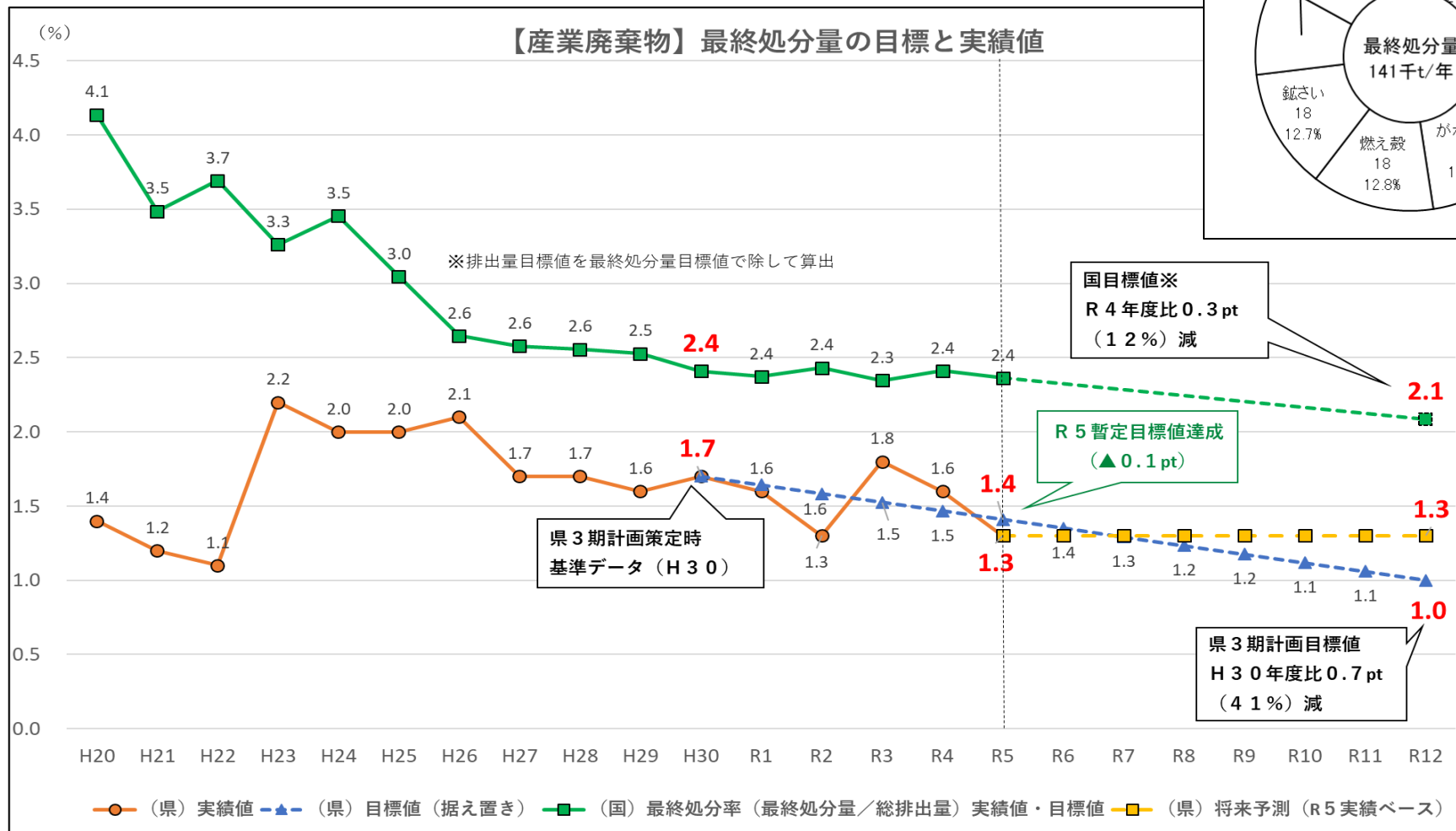
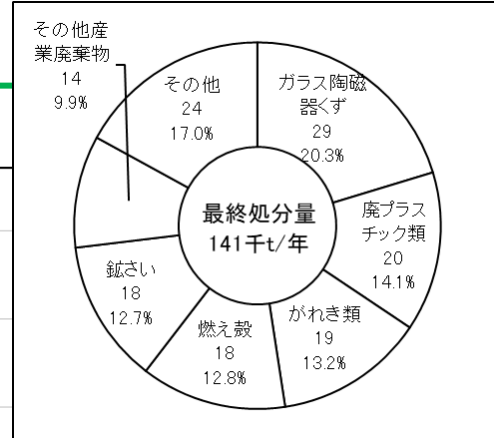
県再生利用量の内訳
(令和5年度)



- 産業廃棄物の「リサイクル率」は、H25年度以降、震災復旧工事の減少によるがれき類の排出量減少に伴い低下傾向にあったが、R2年度以降は再度改善傾向に転じている。
- 現状 (R5実績) は、**目標値を達成 (+1.3pt)** している。
- 将来予測値や国計画の目標も踏まえて、**目標値を上方修正 (+1.5pt)** する。

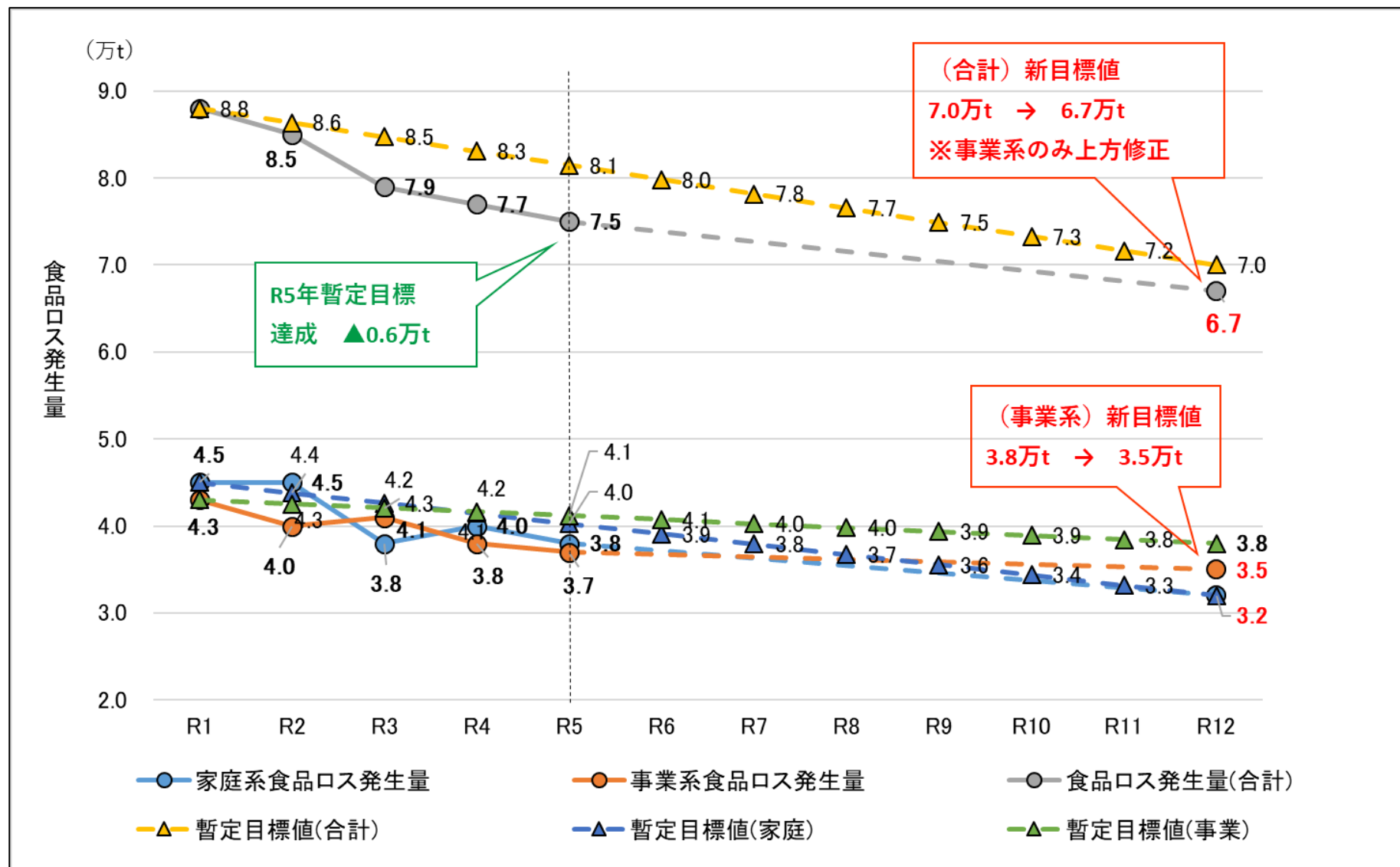
【参考資料】産業廃棄物 最終処分率の推移

県最終処分量の内訳
(令和5年度)



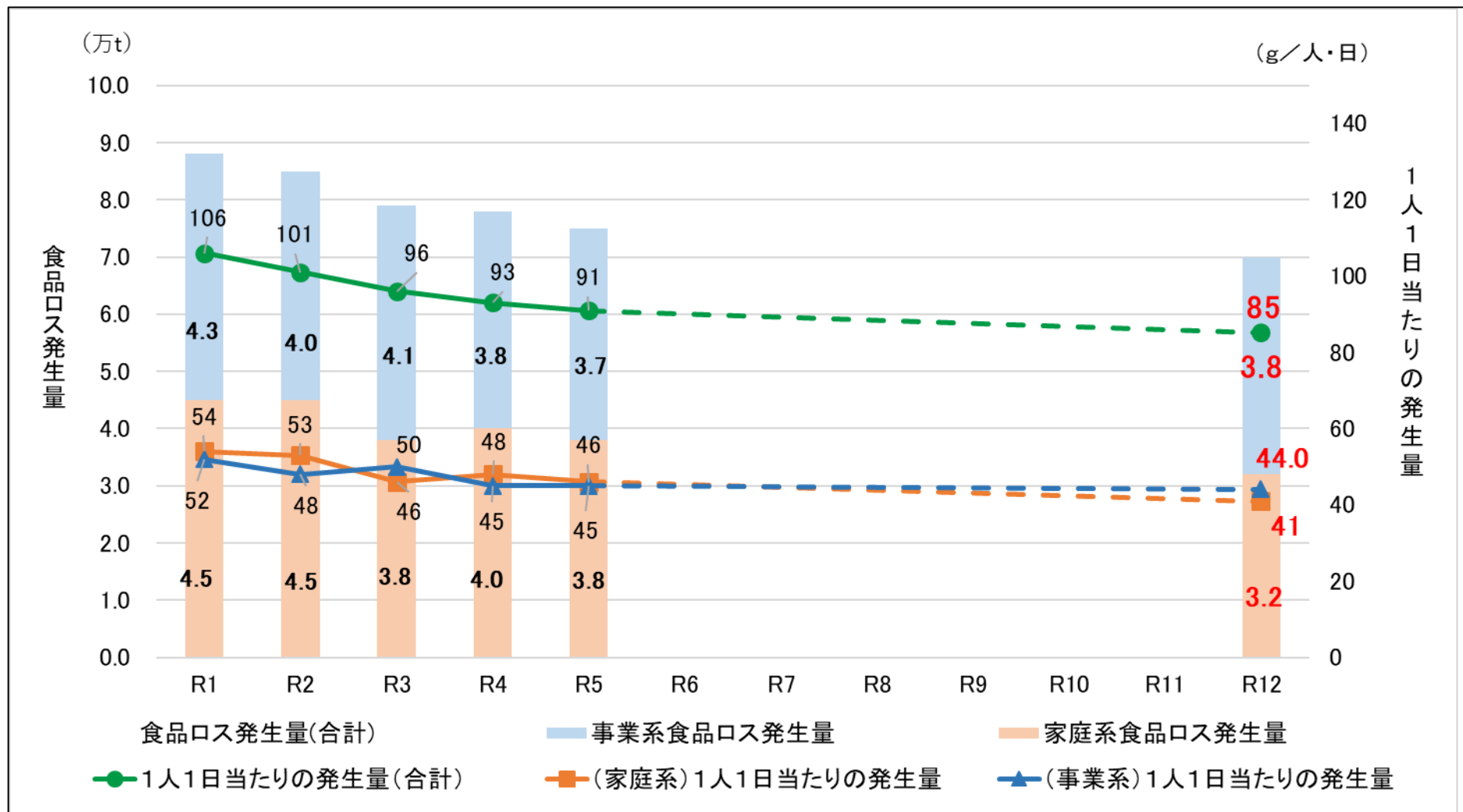
- 産業廃棄物の「最終処分率」は改善傾向にあり、R5暫定目標値と比較すると、現状（R5実績）は-0.1ptとR5暫定目標値を達成し、傾向としては概ね順調に推移していると評価できる。ガラス陶磁器くずや廃プラスチック類などのリサイクルが課題。
- 引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。

【参考資料】食品ロス発生量の推移



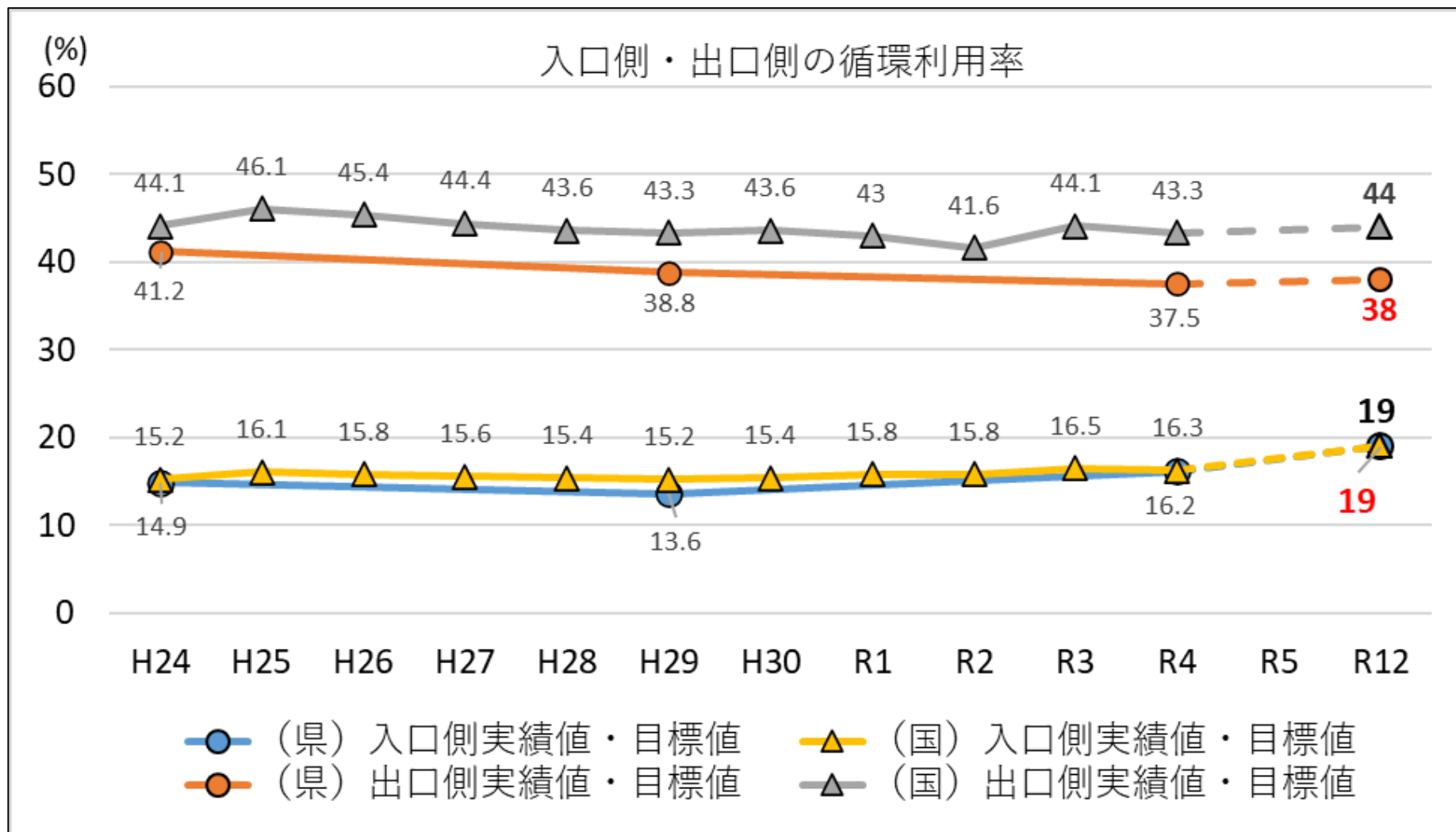
- 食品ロス発生量は、R5暫定目標値を達成。
- 国・県ともに、事業系食品ロス量は、令和5年度に令和12年度目標を達成。国では、更なる削減目標を設定（50%削減→60%削減）し、県も事業系で目標値を上方修正。

【参考資料】食品ロス発生量の推移



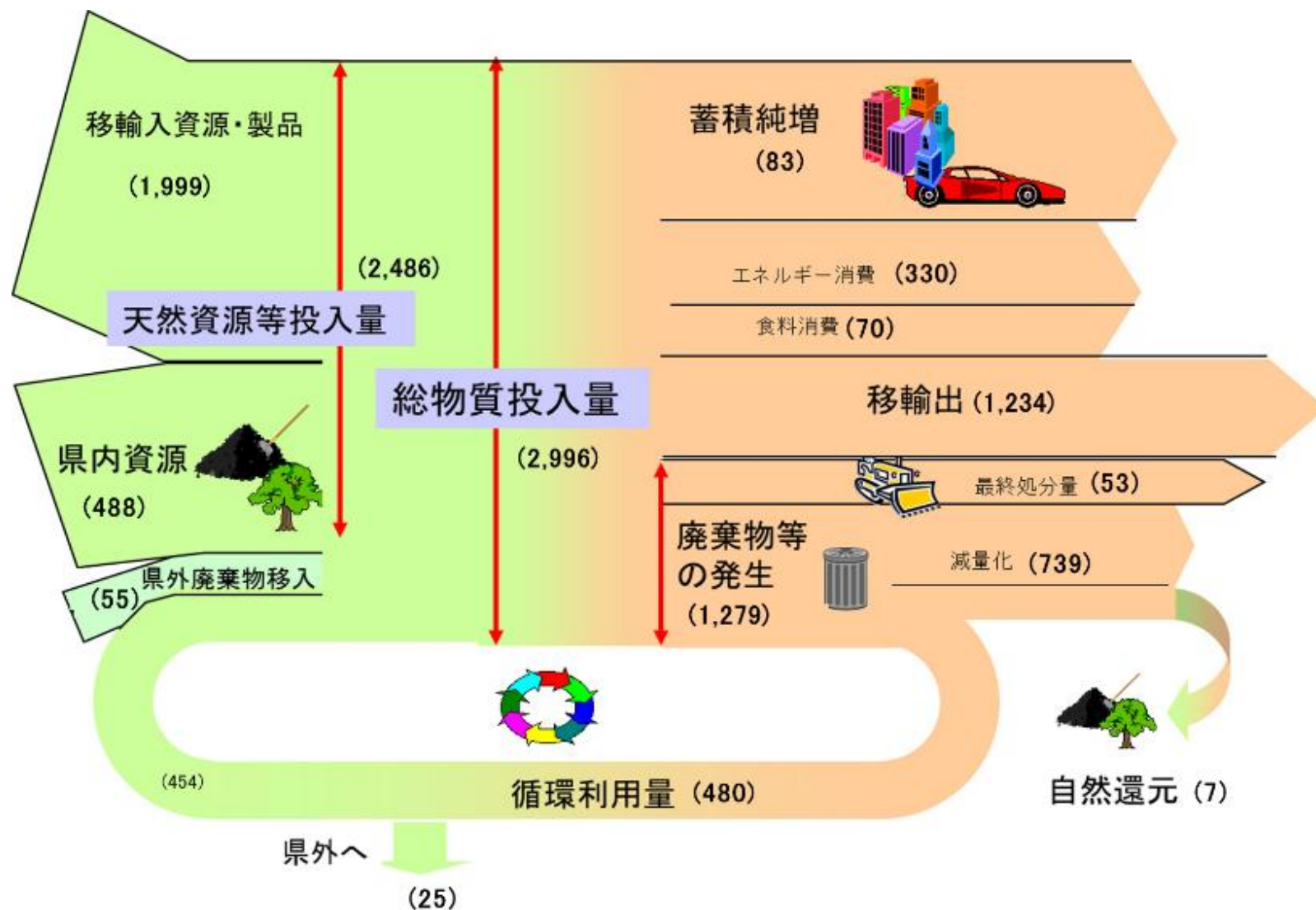
- 食品ロス発生量は、R4暫定目標値を達成。
- 国・県ともに、事業系食品ロス量は、令和4年度に令和12年度目標を達成。国では、更なる削減目標を設定（50%削減→60%削減）

【参考資料】 入口側・出口側の循環利用率の推移



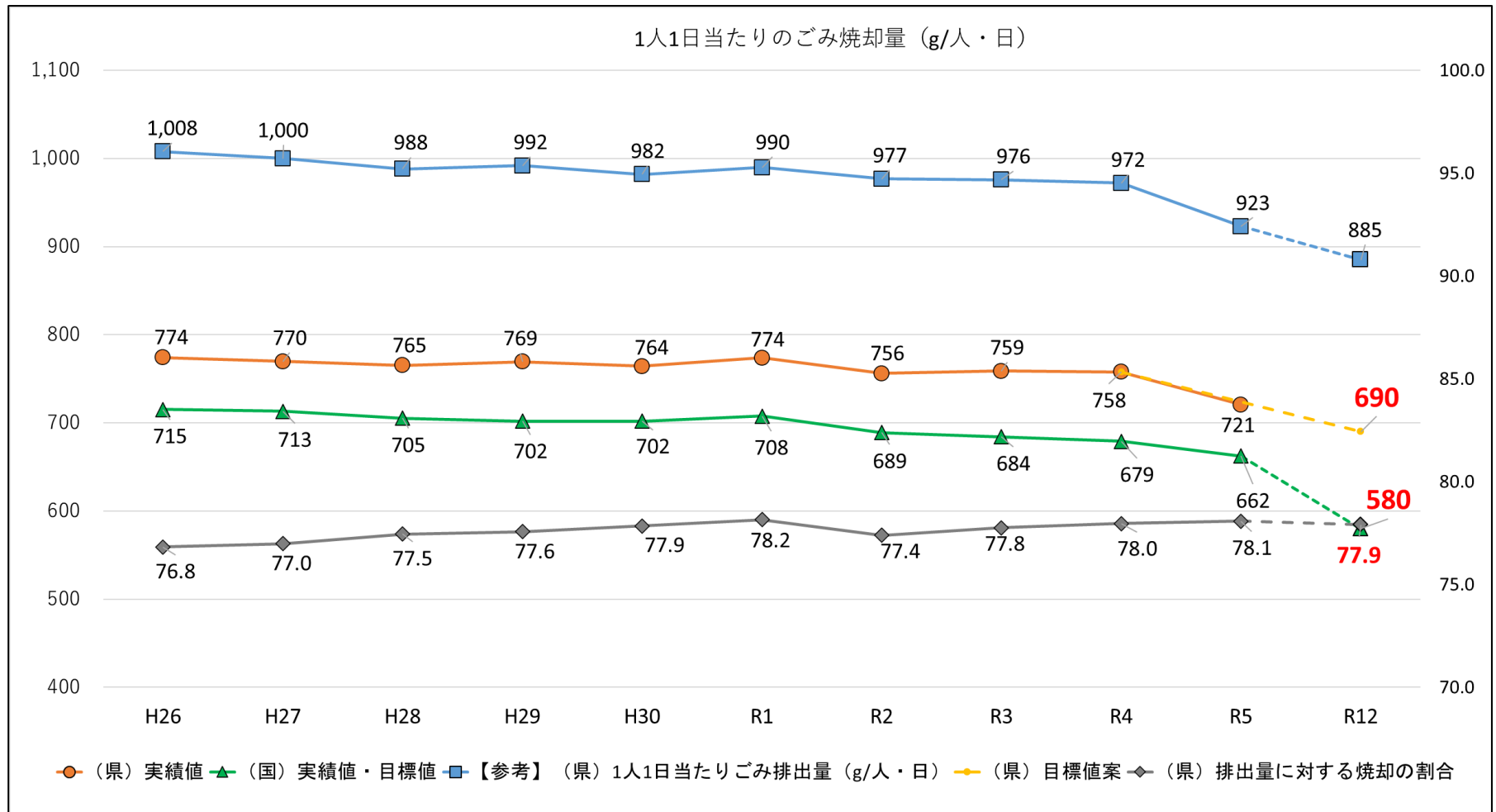
- 入口側及び出口側の循環利用率は国目標値に設定されている。
- 目標値設定の考え方も国目標値のものを踏襲する
 入口側の循環利用率：R 4：16.2%→R12：19% (+ 16% 国の増加率と同等)
 出口側の循環利用率：R 4：37.5%→R12：38% (+1.3% 国の増加率と同等)

【参考資料】本県の物質フロー図（R4年度実績）



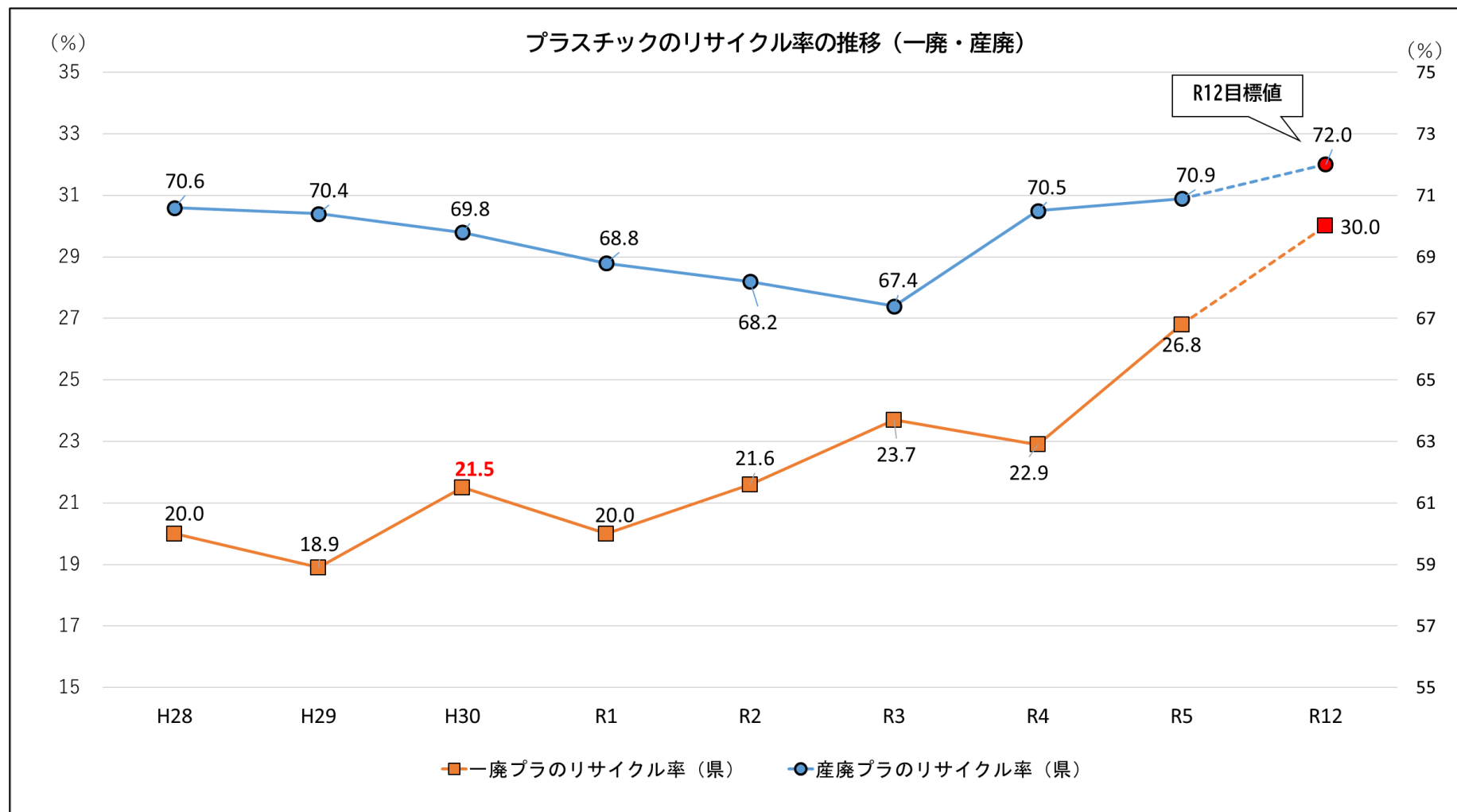
- 入口側の循環利用率 = $\frac{\text{循環利用量}}{\text{天然資源等投入量} + \text{循環利用量}}$
- 出口側の循環利用率 = $\frac{\text{循環利用量}}{\text{廃棄物等の発生}}$

【参考資料】 1人1日当たりごみ焼却量の推移



- 1人1日当たりの焼却量=(可燃ごみ/県内人口/年間日数)
- 国第五次循環基本計画で目標値として設定。
- 令和12年度までに実現可能な目標値とするため、1人1日当たりのごみ排出量の新目標値(R12:885g/人・日)に過去5年間の平均焼却率(77.9%)を乗じて、690g/人・日とする。 14

【参考資料】プラスチックのリサイクル率の推移（一廃・産廃）



- 一廃プラ：現行計画の目標指標から引用。現行のR12目標値（H30実績の16.2%増）及びR5実績を踏まえ「30%以上」と設定。
- 産廃プラ：プラスチック資源循環促進法の施行（R4.4）を踏まえて、新規設定。現行計画の基準年であるH30からR5実績の伸び率（1.6%増）を踏まえ「72%以上」と設定。